

渇水災害

カラカラ列島再び
中部・四国地方で深刻な水不足

中部地方と四国地方は2005年、深刻な渇水に悩まされた。

中部地方は4月から暫定的に雨量が少なく、梅雨入りから14日目に当たる6月24日の時点で、木曾川水系のダム貯水量は、1994年に起きた大規模渇水の水準を下回った。27日には、ダムの貯水量は木曾川水系では牧尾ダム5.2%、岩屋ダム11.7%、豊川水系では宇連ダム13.9%となった。両川水系の各ダムの貯水量はいずれも平常の1~3割程度と、94年の大渇水の再来も懸念された。

ところが、7月に入ると一転、3日には梅雨前線が本州付近に停滞して活動が活発化。これにより、4月以降続いていた少雨による渇水傾向は一挙に解消された。

一方、四国地方も初夏から水不足が続いていた。徳島県南を流れる那賀川水系を皮切りに、吉野川水系、仁淀川水系と四国4県で取水制限が行われた。6月27日には、那賀川水系の長安口ダムが枯渇。さらに8月19日には四国の水がめ、吉野川水系の早明浦ダムの貯水率が0%となり、ダムに残された発電用水の水道用水への緊急放流を開始した。その後、夏の間中渇水の状態が続いたが、9月6日の台風14号による大雨で早明浦ダムは貯水率100%に達し、四国の渇水は解消された。

■平成17年度取水制限の実施状況



貯水率0%となった早明浦ダム (高知県) [写真提供/時事通信社]